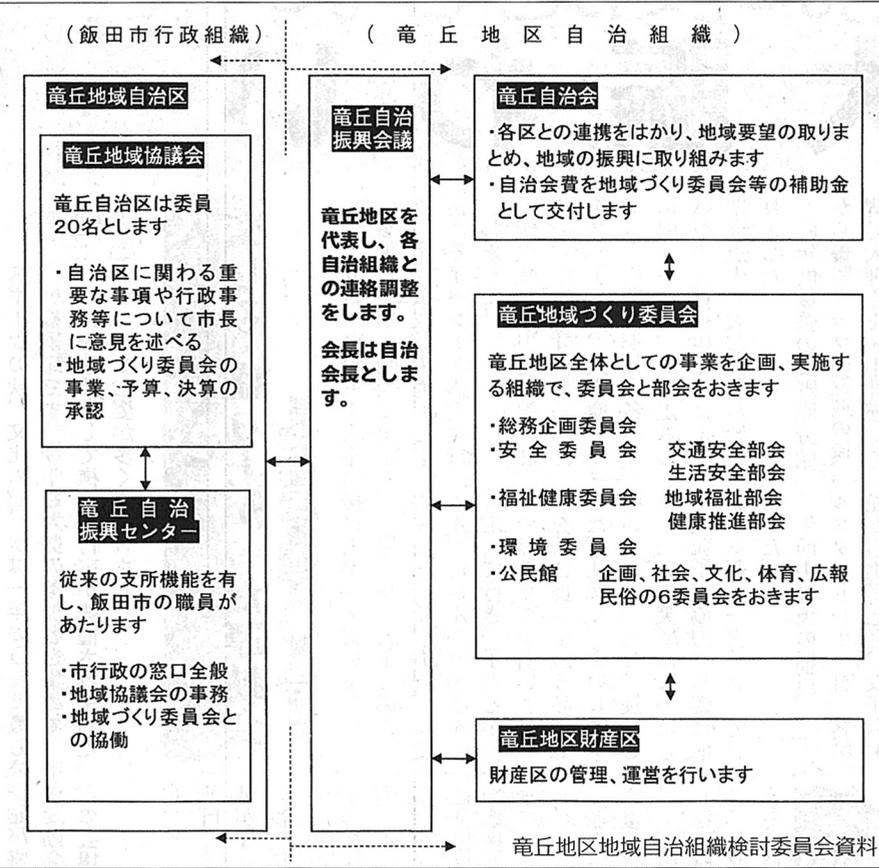


19年4月発足に向けて 竜丘の地域自治組織の方向決まる

……住民の意欲に期待……



自治組織 導入にあたり

竜丘自治協議会会長 下平隆司

平成十八年九月二十一日「飯田市地域自治区設置等に関する条例」が公布され、いよいよ、来年四月一日「自治基本条例」とともに施行されることになりました。

市が行う地域自治区内の行政事務運営にあたって、地域住民の意見を反映する機関として「地域協議会」が設置され、竜丘地区の委員二十名は「自治会・地域づくり委員会」等の推薦(人員八割程)と公募により、市長が選任することになっていきます。地域自治の担い手として住民の

の有意な人材が選任されることを願うところです。推薦・公募とも地域の皆さんの意向が反映されることを期待するものです。

この協議会は、市の諮問に答え、行政運営に意見を述べたりすることですが、事務を執行する機関ではないので竜丘としては地域自治を担う機関として住民の

平成十九年度から市内全地区に地域自治組織が導入されます。竜丘では、昨年から自治協議会委員と各種団体役員による竜丘地区地域自治組織検討委員会で検討を続け、自治組織の体制が決定しました。今後、各区の自治組織の体制を決め、役員を選出することになります。従来の自治の仕組みから、団体の再編だけでなく予算の流れや事業の決め方も変わってくる、私たち住民全てに関わる内容です。大きな関心を持ち議論を深め、住民のためになる組織とする必要があります。



発行所 飯田市公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,830人
男子	3,359人
女子	3,471人
世帯数	2,195戸
(18年10月末現在)	

「地域自治」を推進するために

竜丘公民館長 木下陸奥

四月からいよいよ地域自治組織が導入されることになり、自治会が中心になり、検討委員会が構成され研究が進められ、この程度案ができたことは、大変喜ばしいことでもあります。

もとより地域を発展させるために行政に頼るのでなく、地域住民が地域課題を共有化して、それぞれ役割をもって地域のために関わっていくことは極めて大切なことでもあります。竜丘の地はその土壌が育まれてきて

任意組織である「自治会」「地域づくり委員会」により、自治運営を推進します。竜丘は、従来から駄科・長野原・時又・桐林・上川路の五つの区が、それぞれ充実した自治活動を推進していること。また、各区が財産区としての役割を担って、住民福祉に貢献していること。等から今後とも地域自治の基礎を「区」に置き、自治運営と地域づくりを推進することとします。

したがって、竜丘全体としては、自治の基本運営を「自治会」で担い、地域づくりの事業推進を主として「地域づくり委員会」で担うこととしました。

竜丘地区を、環境に恵まれ、心豊かに、安全・安心して住める地域とするためには、住民全ての皆さんが地域づくりに共に参画し、協調・協働して行動することが大事です。一人でも首を横に振ってはなりません。組織は、委員・役員を決めることから始まります。役員引受けに消極的とならず、特に女性の方の積極的な参画をお願いします。

四月からいよいよ地域自治組織が導入されることになり、自治会が中心になり、検討委員会が構成され研究が進められ、この程度案ができたことは、大変喜ばしいことでもあります。

もとより地域を発展させるために行政に頼るのでなく、地域住民が地域課題を共有化して、それぞれ役割をもって地域のために関わっていくことは極めて大切なことでもあります。竜丘の地はその土壌が育まれてきて

公民館は、先輩たちが努力され地域を学ぶこと、地域に関わることを積極的に推進されてきた歴史があることと認識しております。

この検討委員会においては、公民館も地域づくり委員会の中に入り、他機関と協働して地域づくりに加わるべく位置づけであり、いっそう役割も大きいと思います。基本的に公民館を従来と大きく変わることなく位置づけであることはまことにありがたいことでもあります。だからといって、今までのままであっているのではないのです。

現代は、急速に社会情勢が変貌し、価値観も地域に関わる意識も多様であります。公民館のあり方も当然時代に即応していかなければなりません。

公民館は、竜丘の自然文化を学び、郷土愛を高揚していくことを重点に、地域の人たちの絆を深め、生涯教育を尊重し、生き生きとした明るい地域づくりをしていくことが本旨であります。更には、青少年の地域

付き添われて体育館へ入場「いつでもあの海は」の歌で歓迎を受けました。グループに分かれて交流が行なわれ、児童らは、あやとりやカルタといった日本の遊びを紹介し、研修生からは、その国の文字で自分の名前を書いてもらったり、ダンスやヨガを教えてもらったりと交流を深めました。児童らは初めて触れる異文化に興味しんしん、驚いたり喜んだり楽しい時を過ごしました。

研修生は国ごとに児童に体験学習を取り入れ次代を担う子どもへの育成にも関わらなければならぬのです。そうするためには、公民館が他の団体や諸機関と十分連携を取り協力していく必要があります。今回の組織で強調されている事柄であります。

お昼には、大人の学校の手作り料理をいただきながら、ダンスやゲームを行なっていくるぎの一時となりました。

おいしいお昼の後は、古墳を考える会の下平隆司さんから講義を受け、実際に古墳の見学もしました。その後、大人の学校運営委員会の塩澤義男さんから、ギフトウ保護の活動に基づいた、手作りの紙芝居を交えた講義があり一日の研修が終了しました。

今回は、住民と行政が一体となった参

発足までの三ヶ月間、新か捕まりませんでした。網を使い出すと「捕ったよ」「あーあ」などの一喜一憂する歓声がこちらから聞かれ、子どもたちは顔や服が泥だらけになるのも気にせず、夢中で獲物を追いかけていました。

当日を迎えるにあたっては、公民館委員・育成会など地域の皆さんが、前もって草刈り作業をして楽しめるような環境づくりをしてくださいました。「水辺の楽校」がこれからはますます活用され、子どもたちの笑顔がいつも見られるようになるのではないかと思います。



「泥だらけの子どもたち 水辺の楽校」

好天に恵まれた去る九月十日、小学生や親子連れなど二百人を超える皆さんが参加して「水辺の楽校交流イベント」が開催されました。豊かな自然の中で楽しく遊ぶことで、子どもたちの感性がより豊かになるようにと、始められたこのイベントもすっかり恒例となっています。

最初に皆で水に親しみ、自然の中で思いきり遊ぶ催しを行いました。体育委員の皆さんによる靴とばし競争やストラックアウトなどのゲーム、木舟や筏舟のレースなどを楽しく遊びました。どの催しも人

「公民館」を学ぶ JICAの研修生

八月二十九日、JICA(国際協力機構)の集団研修が、今年も飯田を研修地域として行なわれ、八ヶ岳十五人と日本福祉大学の学生、スタッフを含め、三十人が、竜丘を訪れました。

朝から始まった研修は、まず、飯田市公民館の北澤さんから市の公民館システムの説明があり、その後、四年前から始められた竜丘小学校五年生との交流が行なわれました。

研修生は国ごとに児童に体験学習を取り入れ次代を担う子どもへの育成にも関わらなければならぬのです。そうするためには、公民館が他の団体や諸機関と十分連携を取り協力していく必要があります。今回の組織で強調されている事柄であります。

お昼には、大人の学校の手作り料理をいただきながら、ダンスやゲームを行なっていくるぎの一時となりました。

おいしいお昼の後は、古墳を考える会の下平隆司さんから講義を受け、実際に古墳の見学もしました。その後、大人の学校運営委員会の塩澤義男さんから、ギフトウ保護の活動に基づいた、手作りの紙芝居を交えた講義があり一日の研修が終了しました。

今回は、住民と行政が一体となった参

加型地域開発の研修が目的でしたが、竜丘公民館の活動が、地区住民が参加しあって成り立っているすばらしいものだという事が理解してもらえたのではないかと思います。

研修生は国ごとに児童に体験学習を取り入れ次代を担う子どもへの育成にも関わらなければならぬのです。そうするためには、公民館が他の団体や諸機関と十分連携を取り協力していく必要があります。今回の組織で強調されている事柄であります。

お昼には、大人の学校の手作り料理をいただきながら、ダンスやゲームを行なっていくるぎの一時となりました。

おいしいお昼の後は、古墳を考える会の下平隆司さんから講義を受け、実際に古墳の見学もしました。その後、大人の学校運営委員会の塩澤義男さんから、ギフトウ保護の活動に基づいた、手作りの紙芝居を交えた講義があり一日の研修が終了しました。

今回は、住民と行政が一体となった参

加型地域開発の研修が目的でしたが、竜丘公民館の活動が、地区住民が参加しあって成り立っているすばらしいものだという事が理解してもらえたのではないかと思います。



大人の学校の皆さんと歓談

地域愛・家族愛に支えられ 公民館活動大賑わい



準備運動から大賑わい

スポーツの秋、文化の秋、秋は一年のうちで最も公民館が盛り上がる季節です。今年も大勢の参加者を集めて、市民運動会、文化祭を始めとして様々な行事が開催されました。どの会場も家族で楽しむ姿が多く見られました。

十月九日、今年も千人余の参加者が集い晴天に恵まれ、竜丘公民館の最大とも言えるイベントが盛大に行われました。

聖火リレー担当分館の駄科の六年生が駄科諏訪神社をスタートし、長野原、時又、上川路、桐林と各分館に引き継がれ、最終走者の駄科の近藤裕生くんによる聖火点火で大運動会が始まりました。

昨年度優勝の長野原分館から優勝カップの返還の後、関島大輝くん・小林瑛司くんによる力強い選手宣誓があり、選手一同これからの戦いに意気が上がりました。

最初の採点種目のメドレーリレーでは、麻袋で跳ねて半周からスタートし、各走者はタスキをつなぎ最終走者の二トン車用タイヤ引きに受け継がれた頃には、グラウンド中の人たちが一つになって、自分の分館の応援の声を上げていました。

午前中最後の種目、「オーリスターリレー」は、各分館から男子七名、女子六名の脚力自慢が選ばれ、速さを競いました。低学年児童からスタートしたバトンが年齢順に渡り、最終走者にバトンが渡る頃には、応援も最高潮に達し、自分が競技しているかの様に、手に汗にぎる展開となりました。

今年からの新しい種目「あしたてんきになあれ」は、小学生が靴を飛ばして距離を競い合うものでした。昔はよく目にした光景を、なつかしい思いで見ることができました。

最後の種目「年次むかへ」は、各分館が最も力を入れており、三百三十五名の選手が

援けが入っていました。「早く長く親子で協力」の種目は、子どもを、お父さんお母さんがだっこをして走って行き、子どもが長さの違うヒモを引いて、ヒモを結び長さを競う競技でした。運悪く、短いヒモを引いてしまったり、長いヒモを引いて笑顔になったりと、親子で協力する姿に応援する側も一喜一憂していました。

トラックを力強く走り競う種目で、抜きつ抜かれつ熱戦が繰りひろげられました。採点種目の盛り上がりは、選手の手が震え、緊張もありましたが、小学生を中心とする各分館の応援が競技に華をそえていました。

総合結果
△優勝▽ 長野原分館
△準優勝▽ 時又分館
△三位▽

十一月十一日(土)、十日(日)の二日間、竜丘公民館を会場に竜丘地区文化祭が開催されました。

今年、竜丘地区が昭和三十一年九月三十日に飯田市と合併して五十年目の節目の年です。このことから、文化祭の目玉として、「竜丘の歩んだすがたを明日につなげよう」〜飯田市に合併して五十年を振り返る〜という特別企画展が文化委員会と民俗資料保存委員会の合同で企画されました。

会場となった二階研究室には、委員の皆さんが苦勞して作成された、合併当時から現在までの地区の主な出来事や年表と、関連する文書や写真、また、地区内の古墳から出土した土器などが展示されました。

半世紀の竜丘の歴史が大変分りやすく整理された展示で、会場を訪れた皆さん

人が心を結び
楽しみ・盛り上がった運動会

市民運動会

桐林分館
△四位▽
駄科分館
△五位▽
上川路分館

運動会を支えて来られた各役員の方々、大変ご苦勞さまでした。



特別企画展で下平さんが講演

十一月十一日(土)、十日(日)の二日間、竜丘公民館を会場に竜丘地区文化祭が開催されました。

今年、竜丘地区が昭和三十一年九月三十日に飯田市と合併して五十年目の節目の年です。このことから、文化祭の目玉として、「竜丘の歩んだすがたを明日につなげよう」〜飯田市に合併して五十年を振り返る〜という特別企画展が文化委員会と民俗資料保存委員会の合同で企画されました。

会場となった二階研究室には、委員の皆さんが苦勞して作成された、合併当時から現在までの地区の主な出来事や年表と、関連する文書や写真、また、地区内の古墳から出土した土器などが展示されました。

半世紀の竜丘の歴史が大変分りやすく整理された展示で、会場を訪れた皆さん

意欲的な企画展に
注目集まる

竜丘地区文化祭

は興味深そうに年表の出来事を読み、また、古い写真に懐かしい顔を見つけて当時を思い出していました。

この企画展に合わせ、日曜日には、下平自治協議会長が「飯田市合併五十年の歩みから学ぶもの」と題して講演をされました。その中で、合併直後には、現在のような自治会や各種団体のような明確な組織がなく、

公民館がその役割を担っていたことのお話があり、当時から竜丘地区の公民館活動の先進性が培われてきたのだと感じました。来年度から地域団体が「地域自治組織」に再編成されますが、この先進の精神はしっかりと受け継がれなくてはならないものです。

例年、文化祭では、各分館の展示も注目を集めます。各分館単位で地区内の皆さんの素晴らしい作品などが展示されていますが、今年、長野原分館で「小字から見る長野原の歴史」と題した企画展が、

公民館がその役割を担っていたことのお話があり、当時から竜丘地区の公民館活動の先進性が培われてきたのだと感じました。来年度から地域団体が「地域自治組織」に再編成されますが、この先進の精神はしっかりと受け継がれなくてはならないものです。

「子どもの時期は、食に対する考え方を形成する途上にある。この時期に健全な食生活体験をすることは、子どもが成長し、やがて子育てをする時に大きく影響するものだ」と感じました。

次日には、勝野美江さんを交えて座談会が行なわれ、各団体の食に対する様々な取り組みが報告されました。講演では、食育は「料理ができる力」「食べ物を運ぶ力」「食への命を感じる力」「健康な体」を育むことができる力とありましたが、各団体の取り組みは、まさに食育活動の実践であると感ぜられました。

「親子ふれあい自然体験に参加して」
時又 西 敏行

十月二十八日の「里山自然体験」に保育園児の息子と二人で参加しました。私は幼少から少年期にかけて竜東の山間部で育ちました。常に里山の中で暮らしていたようなものでして、春の山菜採りから、秋のきのこ採りまで、日常の中で山と関わって育ちました。作業をする大人に連れられて山へ行き、そこにある木の枝や葉っぱや草等の素材をおもちゃにし、鎌やのこぎりやナタといった刃物の使い方は、怪我をしながらも自然に体で覚えていきました。現在は時又に住居を構えたので、日頃の生活は、あまり山とは関係がありませんでした。

この事業は、「森の仕事」では下草刈りと枝打ち、「森の遊び」ではなめこ採りと森のクラフトを体験し、焚き火でパンを焼いたりさせていただき楽しませていただきました。

近年、里にのしや、

七月十九日に市民大学講座第一講が開催されました。農林水産省消費・安全局消費者情報官補佐の勝野美江さんの、「食が変える子どもの未来・地域の未来」と題した講演に、八十余名が参加しました。

食を取り巻く現状では、「日本は食料の自給率が四十％でありながら、食糧不足が非常に多い。世界で八億人の人が飢餓に苦しんでいる」と話されました。

国では、「食」に関する知識と「食」を選択する力」を学び、健全な食生活を実践することができるよう育てる「食育」を推進する為に、昨年六月に食育基本法が施行されました。こ

「親子ふれあい自然体験に参加して」
時又 西 敏行

十月二十八日の「里山自然体験」に保育園児の息子と二人で参加しました。私は幼少から少年期にかけて竜東の山間部で育ちました。常に里山の中で暮らしていたようなものでして、春の山菜採りから、秋のきのこ採りまで、日常の中で山と関わって育ちました。作業をする大人に連れられて山へ行き、そこにある木の枝や葉っぱや草等の素材をおもちゃにし、鎌やのこぎりやナタといった刃物の使い方は、怪我をしながらも自然に体で覚えていきました。現在は時又に住居を構えたので、日頃の生活は、あまり山とは関係がありませんでした。

この事業は、「森の仕事」では下草刈りと枝打ち、「森の遊び」ではなめこ採りと森のクラフトを体験し、焚き火でパンを焼いたりさせていただき楽しませていただきました。

近年、里にのしや、

食育は未来のちびっこだいじょう

市民大学講座第一講

勝野美江さんの講演



焚き火でパン焼きに挑戦